

〔昭和 63 年度駐村研究員会議報告・討論記録〕

転換期における地域農業の対応をめぐって

昭和 63 年度駐村研究員会議が平成元年 1 月 23 日に標記のテーマで開催された。今回の駐村研究員会議の報告者および報告のテーマは以下の通りである。

- (1) 道東酪農地帯における生産者の行動 志賀永一（北海道札幌市 酪農総合研究所研究員）
- (2) 短角牛の繁殖・肥育一貫経営とその展望 合砂哲夫（岩手県岩泉町 農業肉牛経営）
- (3) 生産組織が核となる地域農業の展開 千葉孝喜（宮城県米山町 町職員）
- (4) 転換期における地域農業の現状と課題——肉用牛・みかん・でん粉を中心として——料所奈須夫（鹿児島県大崎町 農協専務）

司会は田畑保（首席）主任研究官と水野正己開発経済地域第 2 研究室長の 2 人があたった。報告に先立ち、司会の田畑主任研究官から「転換期における地域農業の対応をめぐって」というテーマを設定した趣旨の説明があった。その後 4 人の駐村研究員から報告があり、最後に全体討論を行なった。なお、この会議には、稿末の出席者名簿にあるように関係の行政部局や試験研究機関から多数の参加者があったほか、農林団体等の関係者からの参加もあった。

以下は、その報告・討論の記録であるが、報告部分については駐村研究員連絡担当の研究員が必要最小限の手を加えただけで、なるべく忠実に再現し、討論部分については、要約的に整理した。なお、討論部分の整理は連絡科が担当した。